

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

内容報告書

団体名：国立大学法人群馬大学

1. 事業の概要

事業名称	日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 -自らの得意分野を活かして地域に貢献するためのアクションへ-
事業の目的	本事業の目的は、日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめている(はじめようとしている)外国人住民が、地域で主体的に生きるための日本語教室を提供することにある。平成29年度は、自らの得意分野を活かした地域実践を日本人住民とともに展開することで、外国人学習者が自分も地域に貢献できる人財であることを実感してもらう。そのチャレンジのために日本語を学ぶ、という動機づけを持たせ、日本語教育の効果も向上させる。このことにより、外国人学習者が、日本語を使った日本人との交流の中から自らの生き方に対する誇りを持ち、日本で高齢期を生きる外国人住民としての知恵や工夫を磨く意欲を向上させ、日本で過ごす高齢期に「生き甲斐」を持って過ごしてもらおう。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	外国人住民の視点からは、①在住地域の日本語教室の存在がわからない、②「あいうえお」や文法の学習ばかりで継続の意欲がもてない、地域日本語教室の視点からは、③当該「地域」に暮らすために必要な「地域」情報を踏まえた「日本語」教育カリキュラムが提供されていない、④指導者が、日本の社会のしくみを一方的に教えるだけという現状がある。
本事業の対象とする空白地域の状況	群馬県における空白地域は、外国人散在地域に存在し、次の4つの状況がある。 ①外国人住民の多くが技能実習生であり、その生活実態は一般住民には見えにくく、交流がほとんどない存在である。 ②技能実習生の日本語学習ニーズと日本語教育の実態が、地域関係者には把握しにくい。 ③技能実習生以外の外国人住民数は極めて少数であり、日本語教室が成立しない。 ④近隣の地域に日本語教室があり、当該地域であって日本語教室を立ち上げる必要がない。 本年度、空白の地域の対象としている川場村は、上記①～④に加え、 ⑤平成28年12月に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンに登録されたが、現在のところ、国際交流協会等の活動の拠点が無い。
事業内容の概要	事業内容とその展開については、①「ぐんまで『高齢期』に備えるための日本語教育」プログラム拡充のためのカリキュラム開発を行い、②開発したカリキュラムを実践する地域日本語教室の指導者を養成する。③養成した人財と共に(a)外国人集住地域の「太田・大泉地域」と(b)空白の地域の「川場地域」の2つの教室で地域日本語教室を実施する。また、④プログラムの拡充・普及にむけた実態調査を進め、⑤シンポジウムを開催する。 空白の地域である利根・沼田地域にある川場村は、平成28年12月に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのアメリア選手団のホストタウンに登録され、その受入環境整備の充実を図る方策と実践を展開するため、群馬大学と協定を結んだ。本事業でもこの協定を活用し、本事業の外国人学習者が、「外国人」の視点で川場村の受入環境整備について知恵を絞り、川場村の関係者を巻き込んでアクションリサーチを実施し、実践に展開する。 具体的には、平成28年度までの本事業で外国人学習者が経験を積み、自国の文化と対照して意見交換をしてきた、高齢期に備える「健康クッキング」「ウォーキング・ストレッチング」「マッサージ」等のプログラム化、村の施設の案内表示や観光ルートを「外国人の視点で」開発、村の特産野菜の調理法の開発、川場村の魅力発信などを川場村と協働で取り組む。ここに、外国人学習者は、まさに地域人財として活躍する機会と動機を与えられ、日本語でのコミュニケーションの必要性を体感することとなる。また、空白の地域である川場村でも、この取組を通して、国際交流協会のような拠点の設置の必要性を具体的にイメージすることができる。その拠点は、日本語教育を目的とし、地域活性化のためのヒントやアイデア、実践力をもつ外国人財との交流拠点となることを、一連の活動を通して実感してもらうことにより、空白の地域解消にむけた前進を図る。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月(10か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	結城 恵	群馬大学大学教育・学生支援機構 大学教育センター
2	佐藤 由美	群馬大学大学院保健学研究科
3	星野 真弓	群馬県生活文化スポーツ部 人権男女・多文化共生課
4	大澤 美和子	太田市企画部交流推進課
5	戸部 正紀	川場村むらづくり振興課
6	石山 輝美	群馬県栄養士会 地域活動事業部桐生支部
7	結城 瞳ジーナ	一般社団法人ミス日本酒
8	坂本 裕美	太田市教育委員会
9	小林 あけみ	太田市教育委員会



第1回運営委員会の様子

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年 12月22日(金) 13:00～15:00	2時間	群馬大学荒牧キャンパス 事務局2階 小会議室	星野真弓(群馬県)、大澤美和子(太田市)、戸部正紀(川場村)、石山輝美(群馬県栄養士会)、結城瞳ジーナ(一般社団法人ミス日本酒)、坂本裕美(太田市教育委員会)、小林あけみ(太田市教育委員会)、結城恵(群馬大学) 陪席:加藤ひとみ(群馬大学)	1. 平成29年度採択事業の概要及び進捗状況について説明し、意見交換を行った。 2. 平成29年度採択事業の実施内容と推進体制について説明し、意見交換を行った。
	平成30年 2月25日(日) 11:00～12:00	1時間	群馬大学太田キャンパス 4階 研修室2	大澤美和子(太田市)、戸部正紀(川場村)、石山輝美(群馬県栄養士会)、結城瞳ジーナ(一般社団法人ミス日本酒)、小林あけみ(太田市教育委員会)、結城恵(群馬大学)	1. 平成29年度採択事業の成果と課題について説明し、意見交換を行った。 2. 実施報告と推進体制について、意見交換を行った。

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	国立大学法人 群馬大学 地域における生活者としての外国人の、日本語教育に対する実態とニーズ把握・カリキュラム開発・指導者養成、日本語教育の展開。 群馬県・太田市・川場村 学習者の募集協力。本事業の県民・市民への周知・広報。指導者養成・地域日本語教室の開催による人材と知見の活用。 「多文化共生推進士」 社会福祉、介護福祉、日本語教育、スポーツ指導、同時通訳等、それぞれの専門領域を活かし、日本語教育プログラムの開発に参画。 担当地域での日本語教育ニーズの掘り起し。実施に向けた連絡調整。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	I. 本事業の統括・進捗管理 (結城 恵) II. 日本語教育プログラムの開発 (坂本 裕美・山田 恵美子・小林 均・小林 あけみ・結城 恵) III. 教室運営に関するコーディネート ①太田教室担当 (町田 智絵) ②川場村との調整担当 (町田 智絵) 相談・助言業務と連絡調整業務担当＋学習者のポートフォリオ・指導者の指導記録の収集と管理担当(町田 智絵) IV. 人材の養成・研修及び学習教材の監修 (結城 恵)
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組の名称		地域日本語教育プログラム拡充のためのカリキュラム開発								
取組の目標		本取組の目標は、日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期に向けて自らの得意分野を活かした地域実践を日本人住民とともに展開することで、外国人学習者が自分も地域に貢献できる人財であることを実感できるカリキュラムを開発することである。外国人学習者には、日本社会のお客様ではなく担い手となるチャレンジのために日本語を学ぶ、という動機づけを持たせ、日本語教育の効果も向上させる。 このことより、外国人学習者が、日本語を使った日本人との交流の中から自らの生き方に対する誇りを持ち、日本で高齢期を生きる外国人住民としての知恵や工夫を磨く意欲を向上させ、日本で過ごす高齢期に「生き甲斐」を持って過ごしてもらうことにつながるカリキュラムを開発した。その成果を、【取組2】地域日本語教室指導者養成講座と、【取組3】地域日本語教室の開催に反映する。								
取組の内容		平成25～27年度に実施した「日本に定住を希望する外国人住民が『高齢期』に向けて備えるための地域日本語教室」のカリキュラム・学習者及び指導者に関する記録を見直し、平成28～30年度の3年間でカリキュラムを見直し精緻化し、指導計画書・教材教具・学習者のポートフォリオ・指導力評価の事例集を作成した。平成25～27年度のカリキュラムの見直しのための2つの観点とは、①日本に定住を希望する外国人住民が「高齢期」に向けて備えるために、必要十分な単元が盛り込まれているか、②外国人住民が日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期にむけた納得のいく備えができるように支援するにはどのように改編すればよいか、である。この2つの観点から抽出された新たな単元をカリキュラム化する作業と、従来提供してきたカリキュラムを改編する作業を平成28～30年度の3年間にPDCAサイクルを回しながら完成させる予定である。 まず、平成28年度分については、学習者が日本で高齢期を「主体的に」生きるという観点から、本学で展開してきた地域日本語教室のカリキュラムを見直し精緻化し、テキストと指導ガイド、及び、指導計画書・教材教具・学習者のポートフォリオ・指導力評価の事例集を作成した。この取組の過程で、外国人学習者が自らの得意分野や知識を発揮し、関係者に新たな知見を提供した場面がしばしば見受けられた。平成29年度は、こうした外国人学習者の主体的な発想・意思表示や実践を活かし、外国人学習者にとって日本社会での「自己効力感」と「生き甲斐」につながるのではないかと考え、その強化を図るカリキュラム開発を行った。 具体的には、川場村をフィールドに外国人受入環境の充実を図るためのフィールドワークと、関係者と日本語で意見交換をし、実践を実施した。そのために必要な日本語学習し、できるだけ通訳に頼らず、外国人学習者が自らの得意分野や知識を提供できるようにした。トピックとしては、①地域の関係機関が提供する「施設利用の手引き」や「観光ガイドマップ」を検証し、②「健康クッキング」「ストレッチング・ウォーキング」（いずれも平成27～28年度に太田・大泉教室で実施）を川場村関係機関での活用を提案する等を検討した。								
取組1	<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	空白地域として、川場村を設定する。川場村は、当初、本事業の空白の地域として設定していなかったが、平成28年12月に、2020年東京オリンピック・パラリンピックのアメリカ選手団ホストタウンに登録され、国際交流拠点として日本語教室の開設の必要性が生まれた。この好機を活かし、「太田・大泉教室」との連携教室を活性化させ、実現を図る。さらに、本学が群馬県との連携により養成した「多文化共生推進士」を活用し、地域日本語教室の担い手の養成を図った。							
	取組による体制整備		【取組1】で検討したカリキュラムを、【取組2】地域日本語教室指導者養成講座と、【取組3】地域日本語教室で活用し、その妥当性を分析した上で、【運営委員会】においてカリキュラムの効果を検証した。							
	取組による日本語能力の向上		高齢期にむけて自らの得意分野を活かした地域実践を日本人住民とともに展開することで、外国人学習者が自分も地域に貢献できる人財であることを実感できるカリキュラムを開発した。このカリキュラムの開発により、外国人学習者には、日本社会のお客様ではなく担い手となるチャレンジのために日本語を学び、という動機づけを持たせ、日本語教育の効果向上ができた。							
	参加対象者		平成28年度本事業で新規開講した「リーダー指導者養成講座（Ⅰ）」終了者	参加者数 (内 外国人数)		5人 (1人)				
	広報及び募集方法		(該当なし)							
	開催時間数		総時間 6 時間(空白地域 0 時間)	(回数)4回 * 回によって時間数が異なる。実施内容を参照。						
	主な連携・協働先		群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、群馬県栄養士会、一般社団法人ミス日本酒等							
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	1
日本(4人)										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成29年 7月2日(日) 9:00～10:00	1	群馬大学 太田キャンパス	2	想定する教室参加者について	群馬県東毛地区に在住する外国人のニーズ及び課題について検討した。	結城恵	坂本裕美		
2	平成29年 7月16日(日) 9:00～10:00	1	太田市 宝泉行政センター	2	平成29年度カリキュラムについて	平成29年度の事業で取り上げる教授項目について検討した。	結城恵	坂本裕美		
3	平成29年 8月28日(月) 10:00～12:00	2	群馬大学 荒牧キャンパス	2	平成29年度カリキュラムについて	教授項目の効果的な配列と教授項目の詳細について検討した。	結城恵	山田恵美子		
4	平成29年 9月11日(月) 13:00～15:00	2	群馬大学 荒牧キャンパス	3	平成29年度カリキュラム「健康」について	ウォーキング班の実践内容について検討した。	結城恵	小林あけみ、 小林均		

○取組事例①

【第1回 29年7月2日】

平成25年度～平成28年度の取組に参画してきた坂本裕美氏(太田市教育委員会バイリンガル教員・多文化共生推進士)とともに、群馬県東毛地区に在住する外国人の状況を踏まえた上で、定住外国人の視点にたつて意見交換し、定住外国人のニーズ及び課題について検討した。



○取組事例②

【第4回 29年9月11日】

12月16日～17日のフィールドワーク川場に向けて、ウォーキング班担当指導者の小林あけみ氏及び、専門家の小林均氏とともに、歩くコースの強度を検証し、学習者にとって適当なコース等について検討を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

外国人学習者の視点に立つて、カリキュラム内容を検討し、外国人学習者は主体的に活動内容を選択し、自ら企画できる要素を増やしたことにより、外国人学習者の出席率向上につながった。このことから、外国人学習者が自分も地域に貢献できる人財であることを実感できるカリキュラムを開発することができたと考えられる。

(3) 今後の改善点について

外国人学習者の視点に立つて群馬県東毛地区に在住する外国人のニーズや生活課題を理解するには、当事者の視点が不可欠であり、指導者スタッフのなかに外国人住民がいることにより、よりニーズに即したカリキュラム内容の構築と、生活実態に合わせたカリキュラムの応用展開を検討することが可能になる。今後とも、外国人学習者のなかから指導スタッフが誕生するように、地域日本語教室の基礎・応用力の強化を進めていきたい。

また、カリキュラム内容の構築には、専門的立場からの検討も不可欠であり、指導スタッフのなかに運動健康指導士、教員、多文化共生推進士等がいることは、質の高さを担保することが可能になる。本年度後半には、行政書士も誕生したことから、今後は、その資質能力も活用し、本カリキュラムの充実をはかりたい。さらに、高齢期に備えることに関わる多様な専門領域にも目を向け、それらの領域から生活者としての外国人のための地域日本語教室に興味関心を持ち、いづれは指導スタッフになるような人財を確保していきたい。

<取組2>

取組の名称		地域日本語教育プログラム拡充のための地域日本語教室指導者の養成						
取組の目標		①「指導者」の養成 【取組1】で開発したカリキュラムを【取組3】の地域日本語教室で実践展開する「指導者」を養成する。本事業の趣旨を理解し、実践に展開するためのカリキュラムの構成と内容を理解し実践できる人材を養成する。 ②「リーダー指導者」の養成 平成31年度以降に地域日本語教室を企画・運営できる人材を養成するために、群馬県認定「多文化共生推進士」あるいはそれと同等以上のコーディネーター資質を有する者を対象に、上記①の「指導者」の養成に参画し、地域日本語教育の理念を理解し、PDCAサイクルを回しながら学習者と指導者を主体的に支える「リーダー指導者」を平成28年度より3年間の積み上げ方式で養成する。						
取組の内容		①「指導者」の養成 【取組1】で開発したカリキュラムを、【取組4】で収集・分析される対象地域（「太田・大泉地域」と「川場地域」、及び、適用可能性を検討する他県他地域）での実態調査を踏まえ、①学習者の理解、②教材研究、③単元毎の学習教材の作成、④単元毎の教案の作成、⑤授業実践、⑥実践後の振り返りを、理論的かつ実践的に指導し人材を養成した。 ②「リーダー指導者」の養成 上記①の「指導者」の養成の事前・事後研究に参画させ、「指導者」の養成方法に求められる指導方法を総合的に学ぶ機会を提供した。上記①の「指導者」養成講座のうち、「リーダー指導者」候補生が講師補助者として指導を企画・実施する回を各人2回設定し、平成29年度には講師として地域日本語教室指導者として、平成30年度には地域日本語教室指導者養成講座コーディネーターとして活躍できるように実践経験を積ませる。						
<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	空白地域として、川場村を設定した。平成28年12月に、川場村は、2020年東京オリンピック・パラリンピックのアメリカ選手団ホストタウンに登録され、国際交流拠点として日本語教室の開設の必要性が生まれた。この好機を活かし、「太田・大泉教室」との連携教室を活性化させ、実現を図った。さらに、本学が群馬県との連携により養成した「多文化共生推進士」を活用し、地域日本語教室の担い手の養成を図った。						
取組による体制整備		【取組1】で検討したカリキュラムを、【取組4】で収集・分析される対象地域（「太田・大泉地域」と「川場地域」、及び、適用可能性を検討する他県他地域）での実態調査を踏まえ、地域日本語教室で効果的に活用する「指導者」と、平成31年度からは地域日本語教室の主催者として「指導者」への指導・助言ができる「リーダー指導者」を養成した。【取組3】では、【取組2】で養成した人材が実習体験を積み重ねると同時に、【取組1】で開発したテキストや指導ガイドブック等の使い勝手を検証した。						
取組による日本語能力の向上		高齢期にむけて自らの得意分野を活かした地域実践を日本人住民とともに展開することで、外国人学習者が自分も地域に貢献できる人材であることを実感できる日本語教育カリキュラムを実施し、外国人学習者に対して、日本社会のお客様ではなく「担い手」となるチャレンジのために日本語を学ぶ、という動機づけを持たせ、日本語教育の効果向上導き出す指導者を養成した。						
参加対象者		①本事業の指導者・本事業で平成28年度に養成を終えた地域日本語指導者とコーディネーター、②平成28年度に本事業の学習者で地域日本語指導者の資質があるとみなされた者。③新規参加者については、本事業の趣旨を理解し、本養成講座を30時間以上履修する者。	参加者数 (内 外国人数)		11人 (3人)			
広報及び募集方法		「指導者」については、「太田・大泉地域」と「川場地域」及び両地域の周辺地域の自治体や国際交流協会等にも周知・広報し、学習者を募った。「リーダー指導者Ⅰ（指導書・教育実践）」については、平成28年度に「指導者」養成講座を終了した者に、「リーダー指導者Ⅱ（ネットワーク・コーディネーター）」については、平成28年度に「リーダー指導者Ⅰ」を修了した者が受講した。						
開催時間数		総時間 45時間(空白地域0時間)	(回数)12回					
主な連携・協働先		群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、群馬県栄養士会、一般社団法人ミス日本酒等						
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	日本(8人)							
3								

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年 6月18日(日) 10:00~12:00 13:00~15:00 15:00~17:00	6	群馬大学 太田キャンパス	7人	本年度の日本語教育事業の取組について	・平成29年度、日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室の概要、カリキュラム案の基本事項について説明。 ・教室の構成、想定する学習者の日本語レベルやニーズについて検討。	結城恵	該当無し
2	平成29年 7月2日(日) 10:00~12:00 13:00~15:00 15:00~17:00	6	群馬大学 太田キャンパス	8人	日本語教室の準備について	・活動の年間スケジュールの作成。 ・教室のチラシを作成し、配付先について検討。 ・各回のテーマについて意見交換。	結城恵	該当無し
3	平成29年 7月16日(日) 10:00~12:00 13:00~15:00 15:00~17:00	6	太田市 宝泉行政センター	10人	日本語教室の準備について	・参加申し込み状況をもとに学習者の簡単なプロフィールを作成し、ディスカッション。 ・第1回内容及び教材について検討。 講義のシミュレーション及び、見直し。 第1回までの作業分担、当日の役割を決めた。	結城恵	該当無し

4	平成29年 8月20日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	5人	第1回地域日本語教室の事前事後実施の検討	・第1回教室「日本を旅行して困ったこと」の講義シミュレーション。内容の検討及び見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	該当無し
5	平成29年 8月26日(土) 13:00~15:00 15:00~17:00	4	群馬大学 太田キャンパス	4人	第1回地域日本語教室の事後実施の検討	・第1回教室に参加した方のプロフィール、日本語レベル等の共有。 ・各回の担当、教材等について検討。	結城恵	該当無し
6	平成29年 10月15日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	8人	第2回地域日本語教室の事前事後実施の検討	・第2回教室「川場村実践・事前学習①」の講義シミュレーション。 各学習班で行う活動の共有。内容の検討及び見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	該当無し
7	平成29年 11月12日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	10人	第3回地域日本語教室の事前事後実施の検討	・第3回教室「川場村実践・事前学習②」の講義シミュレーション。 各学習班で行う活動の共有。内容の検討及び見直し。 ・全体活動の講義「食材の栄養について」の内容、流れ等の検討。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	石山輝美
8	平成29年 11月26日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	10人	第4回地域日本語教室の事前事後実施の検討	・第4回教室「川場村実践・事前学習③」の講義シミュレーション。 各学習班で行う活動の共有。内容の検討及び見直し。 ・全体活動の講義「地酒のPRの仕方について」の内容、流れ等の検討。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	結城瞳ジーナ
9	平成29年 12月3日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	9人	第5回~第7回地域日本語教室の事前事後実施の検討	・第5回教室「川場村実践・事前学習④」の講義シミュレーション。 第6回・7回教室「川場村実践・本番」の内容検討、見直し。 全体活動及び、各学習班で行う活動の共有。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	該当無し
10	平成30年 1月28日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	9人	第8回地域日本語教室の事前事後実施の検討	・第8回教室「川場村実践・事後学習」の講義シミュレーション。 全体活動及び、各学習班で行う活動の共有。内容検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	該当無し
11	平成30年 2月18日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	9人	第9回地域日本語教室の事前事後実施の検討	・第9回「報告会事前学習」の講義シミュレーション。 全体活動及び、各学習班で行う活動の共有。内容検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	該当無し
12	平成30年 2月25日(日) 9:00~11:00	2	群馬大学 太田キャンパス	8人	第10回地域日本語教室の事前事後実施の検討	・第10回報告会のシミュレーション。全体活動及び各学習班で行う発表の再確認。共有。内容検討、役割分担。 ・報告会の振り返り。	結城恵	該当無し

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第3回 29年7月16日】

・参加申し込みの状況をもとに学習者の簡単なプロフィールを作成し、ディスカッション。
・第1回「日本を旅行して困ったこと」、第2回「川場村実践・事前学習①」、第3回「川場村実践・事前学習②」の内容及び教材について検討。講義のシミュレーション及び、見直し。
第1回までの作業分担、当日の役割等の決定。



○取組事例②

【第11回 30年2月18日】

- ・第9回「報告会事前学習」の講義シミュレーション。
- ・全体活動及び、各学習班で行う活動の共有。内容検討、見直し。
- ・講義内容の振り返り。



(2) 目標の達成状況・成果

①「指導者」の養成

【取組1】で開発したカリキュラムを【取組3】の地域日本語教室で実践展開する「指導者」を養成することができた。本事業の趣旨を理解し、実践に展開するためのカリキュラムの構成と内容を理解し実践できる人材を養成できた(該当者5名)。

②「リーダー指導者」の養成

群馬県認定「多文化共生推進士」あるいはそれと同等以上のコーディネーター資質を有する者を対象に、上記①の「指導者」の養成に参画し、地域日本語教育の理念を理解し、PDCAサイクルを回しながら学習者と指導者を主体的に支える「リーダー指導者」を養成することができた(該当者5名)。

(3) 今後の改善点について

本教室のクラス規模を考えると10名の指導者は適切な数であり、5名のリーダー指導者と5名の指導者というバランスもよいと考えられる。しかし、これらの指導者の間にも、それぞれの家庭におけるライフステージが変化し、自身の家族の介護にあたるため教室活動に参加できないという事態も発生し始めた。本教室を継続的・発展的に展開していくためには、次世代指導者の養成も射程に入れていかなくてはならない。

<取組3>

取組の名称		地域日本語教育プログラム拡充のための地域日本語教室の開催		
取組の目標		【取組1】で開発したカリキュラムを【取組2】で養成する地域日本語教室指導者と共に、地域日本語教室で実践展開する。日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめ外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、自らの得意分野を活かした地域実践を日本人住民とともに展開することで、外国人学習者が自分も地域に貢献できる人材であることを実感できるように支援する地域日本語教室を展開する。		
取組の内容		<p>川場村をフィールドに外国人受入環境の充実を図るためのフィールドワークと、関係者と日本語で意見交換をし、実践を考えた。そのために必要な日本語学習し、できるだけ通訳に頼らず、外国人学習者が自らの得意分野や知識を提供できるようにした。トピックとしては、①地域の関係機関が提供する「施設利用の手引き」や「観光ガイドマップ」を検証し、②「健康クッキング」「ストレッチング・ウォーキング」(平成27～28年度に太田・大泉教室で実施)を川場村関係機関での活用を提案する等を検討した。</p> <p>空白の地域である利根・沼田地域にある川場村は、平成28年12月に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのアメリカ選手団のホストタウンに登録され、その受入環境整備の充実を図る方策と実践を展開するため、群馬大学と協定を結んだ。本事業でもこの協定を活用し、本事業の外国人学習者が、「外国人」の視点で川場村の受入環境整備について知恵を絞り、川場村の関係者を巻き込んでアクションリサーチを実施し、実践を行った。</p> <p>外国人学習者に対しては、地域人材として活躍する機会と動機を与え、日本語でのコミュニケーションの必要性を体感させた。「太田・大泉地域」では、川場村でのフィールドワークや実践に向けた基礎学習と日本語教育を構築し、空白の地域である「川場村」では、この取組を通して、国際交流協会のような拠点の設置の必要性を関係者に具体的にイメージしてもらった。その拠点は、日本語教育を目的とし、地域活性化のためのヒントやアイデア、実践力をもつ外国人材との交流拠点となることを、一連の活動を通して実感してもらうことにより、空白の地域解消にむけた前進を図った。</p>		
<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	空白地域として、川場村を設定した。平成28年12月に、川場村が2020年東京オリンピック・パラリンピックのアメリカ選手団ホストタウンに登録され、国際交流拠点として日本語教室の開設の必要性が生まれた。この好機を活かし、「太田・大泉教室」との連携教室を活性化させ、実現を図った。「川場村地域」では、現地の日本人地域関係者を主に国際交流協会・日本語教室の設置の必要性を実感してもらった場とし、「太田・大泉地域」では、その啓発の補助者(将来は担い手)としての外国人住民を日本語でコミュニケーションできるように養成した。		
取組3	取組による体制整備	【取組1】で開発したカリキュラムを【取組2】で養成する地域日本語教室指導者と共に、地域日本語教室で実践展開する。カリキュラムの妥当性と養成した人材の評価を【中核メンバー】の講師3名が分析した上で、【運営委員会】においてカリキュラムの効果を検証する。		
	取組による日本語能力の向上	日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめ外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、自らの得意分野を活かした地域実践を日本人住民とともに展開することで、外国人学習者が自分も地域に貢献できる人材であることを実感できるように支援する地域日本語教室を展開する。		
	参加対象者	「太田・大泉地域」または「川場地域」及びその周辺地域の在住・在勤の成人	参加者数 (内 外国人数)	・50人 ・(42人)
広報及び募集方法		「太田・大泉地域」と「川場地域」及び両地域の周辺地域の自治体や国際交流協会等にも周知・広報し、学習者を募った。		
開催時間数		総時間 97 時間(空白地域 41時間)	(回数) 10回 (回によって開催時間は異なる。実施内容を参照)	

主な連携・協働先		群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、群馬県栄養士会、一般社団法人ミス日本酒等						
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	3				3			10
ペルー(23)、日本(8)、インド(2)、ボリビア(1)								
実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年 8月20日(日) 13:00~16:00	3時間 ×2回	群馬大学 太田キャンパス	34人	日本を旅行して困ったこと	・イントロダクション ・参加者「自己紹介」 ・心と体の健康体操 ・血圧測定 ・ディスカッション「日本を旅行して困ったこと」	結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 坂本裕美, 正田江利子, 綿貫通啓, 糸井和子
2	平成29年 10月15日(日) 13:00~16:00	1時間 ×1回 + 2時間 ×3回	群馬大学 太田キャンパス	28人	川場村実践 事前学習①	・本年度のプロジェクト「フィールドワーク川場」の概要説明・川場村の紹介。 ・フィールドワーク川場に向けて、参加者が3つのグループに分かれて、当日の内容についてディスカッションした。 【全体活動】ストレッチングの実践 【各班活動】ウォーキング班、料理班、酒班	結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 正田江利子, 綿貫通啓, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA
3	平成29年 11月12日(日) 13:00~16:00	1時間 ×1回 + 2時間 ×3回	群馬大学 太田キャンパス	21人	川場村実践 事前学習②	【全体活動】 管理栄養士さんによる講義:「食材の栄養について」 学習者の国で栄養が豊富な食材等について意見交換。 【各班活動】 ・ウォーキング班:太田キャンパスの近くにある「大光院」までのウォーキングを実施。 ・料理班:管理栄養士さんと意見交換し、フィールドワーク川場で学習者が実際に作る料理についてアドバイスをいただいた。 ・お酒班:学習者の国でお酒を楽しむ習慣等についてディスカッション。	石山輝美 結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 坂本裕美, 正田江利子, 綿貫通啓, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 町田智絵
4	平成29年 12月26日(日) 13:00~16:00	1時間 ×1回 + 2時間 ×3回	群馬大学 太田キャンパス	17人	川場村実践 事前学習③	【全体活動】 2017ミス日本酒群馬代表によるレクチャー「地酒のPRの仕方について」 【各班活動】 ・ウォーキング班:太田キャンパスの近くにある、高山神社までウォーキング ・料理班:フィールドワーク川場で学習者が村のみなさんに紹介する「かぼちゃ」と「リンゴ」のレシピ資料の作成。 ・お酒班:学習者の出身国のお酒の銘柄と分類についてディスカッション。	結城瞳 結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 坂本裕美, 正田江利子, 綿貫通啓, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 町田智絵
5	平成29年 12月3日(日) 13:00~16:00	3時間 ×3回	群馬大学 太田キャンパス	15人	川場村実践 事前学習④	【全体活動】 フィールドワーク川場に向けて、役割分担し、実際に使う日本語フレーズの意味確認・練習を行った。 【各班活動】 ・ウォーキング班:当日のウォーキングコースの紹介。川場村のみなさんと交流をするための日本語会話の練習。 ・料理班:日本語でレシピ・作り方紹介の練習。 ・お酒班:当日、酒蔵にてインタビューするときの項目を検討し、日本語で練習。	結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 坂本裕美, 正田江利子, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 町田智絵

6	平成29年 12月16日(土) 9:00~16:00 17:00~19:00	7時間 ×3回 + 2時間	川場村	17人	川場村実践 本番 (1日目)	<p>【班活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング班:川場村スポーツクラブ指導員の協力のもと、田園プラザ川場周辺にてノルディックウォーク体験、田園プラザ川場の見学。 ・料理班:川場村役場管理栄養士及び生活改善推進員の協力のもと、調理準備及び調理実習・試食・意見交換。 ・お酒班:土田酒造及び川場温泉かやぶきの源泉湯宿悠湯里庵の見学。 <p>【全体活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区民健康村なかのビレジにて、石田りんご園の協力により、「りんご」について季節・種類による味や生産方法のちがい等について学習。 	結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 坂本裕美, 綿貫通啓, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 町田智絵, 星勝実, 関数敏, 飯塚 玲子, 吉澤静江, 星野てる子, 吉野さゆり, 石田幸松
7	平成29年 12月17日(日) 9:00~16:00	6時間 ×3回	川場村	17人	川場村実践 本番 (2日目)	<p>【全体活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉祥寺にて副住職による説明及び茶道体験。 <p>【班活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング班:川場村スポーツクラブ指導員の協力のもと、吉祥寺から田園プラザ川場までノルディックウォーク体験。 ・料理班:永井酒造・古新館、名主の館にて食に関する学習。 ・お酒班:永井酒造・古新館、永井酒造製造部門見学。 <p>【全体活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田園プラザ川場見学・実践振り返り 	結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 坂本裕美, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 町田智絵, 星勝実, 金子みつ江,
8	平成30年 1月28日(日) 9:00~16:00	3時間 ×3回	群馬大学 太田キャンパス	16人	川場村実践 事後学習	<p>【全体活動】フィールドワーク川場の振り返り。報告会の流れ等の説明。</p> <p>【班活動】報告会に向けて、発表原稿の作成。</p>	結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 坂本裕美, 正田江利子, 綿貫通啓, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, 町田智絵
9	平成30年 2月18日(日) 13:00~16:00	3時間 ×3回	群馬大学 太田キャンパス	14人	報告会 事前学習	<p>【各班活動】報告会に向けて、発表原稿の完成及び発表練習。</p>	結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 正田江利子, 綿貫通啓, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 町田智絵
10	平成30年 2月25日(日) 12:30~14:30	2時間	群馬大学 太田キャンパス	19人	日本語教室・報告会 本番	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者及び学習者による成果発表(各班で発表:ウォーキング、料理、お酒、全体活動) 	薄衣景子氏, 結城瞳ジーナ氏, 結城恵	山田恵美子, 小林あけみ, 正田江利子, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 町田智絵

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第3回 29年11月12日】

- ・【全体活動】管理栄養士さんによる講義:「食材の栄養について」学習者の国で栄養が豊富な食材等について意見交換。
- ・【各班活動】ウォーキング班:太田キャンパスの近くにある「大光院」までのウォーキングを実施。
- ・料理班:管理栄養士さんと意見交換し、フィールドワーク川場で学習者が実際に作る料理についてアドバイスをいただいた。
- ・酒班:学習者の国でお酒を楽しむ習慣等についてディスカッション。



○取組事例②

【第6回 29年12月16日】

【各班活動】

ウォーキング班: 川場村スポーツクラブ指導員の協力のもと、田園プラザ川場周辺にてノルディックウォーク体験、田園プラザ川場の見学。

料理班: 川場村役場管理栄養士及び生活改善推進員の協力のもと、調理準備及び調理実習・試食・意見交換。

お酒班: 土田酒造及び川場温泉かやぶきの源泉湯宿悠湯里庵の見学。

【全体活動】

世田谷区民健康村なかのビレッジにて、石田りんご園の協力により、「りんご」について季節・種類による味や生産方法のちがいがい等について学習。



(2) 目標の達成状況・成果

【取組1】で開発したカリキュラムを【取組2】で養成する地域日本語教室指導者と共に、地域日本語教室で具体的に、「ウォーキング班」「料理班」「日本酒班」というグループを形成して、実践展開することができた。参加した外国人学習者の満足度も高く、日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめ外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、自らの得意分野を活かした地域実践を日本人住民とともに展開することで、外国人学習者が自分も地域に貢献できる人財であることを実感できるように支援する地域日本語教室を展開することができた。

(3) 今後の改善点について

学習者の主体的な活動により、学習者自らがもっと体験を深めてみたい、他の班の活動も体験したいという声が上がった。この好機に、自らが参加した班の活動内容を伝え合うだけでなく、「教える」という役割を相互に担えるようにすることで、主体性をさらに発揮してもらうことが可能になる。同時に、この経験を地域の日本人住民にも分かり合う機会を用意することでさらに、日本語を話すという動機づけと、伝えることの能力の向上を図ることができると考えられる。

＜取組4＞										
取組4	取組の名称		地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査							
	取組の目標		事業責任者・コーディネーター・リーダー指導者となる多文化共生推進士が、対象地域に関する実態調査を行い、学習者が、「外国人の視点」で対象地域の面白い点・不自由な点など感じることを抽出し、表現できるような指導法・しくみづくりについて検討する。また、そうした試みが、空白の地域にとってもメリットとなるような方策を探るために、実践地域関係者との協議する。							
	取組の内容		「太田・大泉地域」及び「川場地域」で地域日本語教室を企画・運営面する上で、外国人住民の持つ視点と発想を把握するため、実態調査を実施する。その結果をもとに、両地域の関係者とともに協議し、それぞれの地域で、地域日本語教室を展開する上での可能性と課題を抽出し、具体的な方策を検討する。							
	<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	「太田・大泉地域」「川場地域」における外国人住民の「生活者としての日本語学習ニーズ」と「地域日本語教室」に継続参加するための環境整備に関するヒアリング調査を実施する。また、本事業で提供する単元に関する他県他地域からの情報収集と、「空白地域」の取組の事例調査を実施する。その結果をもとに、対象地域の関係者と地域日本語教室プログラムの拡充と普及について協議する。							
	取組による体制整備		【取組1】で開発したカリキュラムを【取組2】で養成する地域日本語教室指導者と共に、【取組3】で地域日本語教室で実践展開する。これらの実践結果を対象地域の実情に合った形態での実践につなげるため、対象地域での実態調査をおこなうと同時に、他県他地域における成功事例・失敗事例を収集し、その結果をもとに、地域日本語教室プログラム拡充・普及のあり方について協議する。							
	取組による日本語能力の向上		日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめ外国人住民が、「生活している地域」において高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期にむけた納得のいく備えを考え、その考えを日本語を活用して地域の人々とコミュニケーションをとっていくことを導き出せるような環境を関係者とともに整備する。							
	参加対象者		事業責任者・コーディネーター・リーダー指導者となる多文化共生推進士・2つの対象地域の関係機関の実務担当者	参加者数 (内 外国人数)		2 (0)				
	広報及び募集方法		(該当しない)							
	開催時間数		総時間 8 時間(空白地域 0 時間)	(回数) 3 回						
	主な連携・協働先		群馬県利根沼田振興局、太田市企画部交流推進課、川場村、川場村観光協会、永井酒造(株)、(株)雪ほたか、(株)田園プラザ川場、青龍山吉祥寺 等。							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		日本(2)								

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	対応者
1	平成30年 3月6日(火) 13:00~15:00	2	群馬大学 荒牧キャンパス	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	地域の外国人住民のニーズと地域の実情を把握する調整業務の実施	取組担当者: 町田智絵	学習者・教室指導者
2	平成30年 3月9日(金) 13:00~16:00	3	群馬大学 荒牧キャンパス	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	地域の外国人住民のニーズと地域の実情を把握する調整業務の実施	取組担当者: 町田智絵	学習者・教室指導者
3	平成30年 3月16日(金) 13:00~16:00	3	群馬大学 荒牧キャンパス	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	地域の外国人住民のニーズと地域の実情を把握する調整業務の実施	取組担当者: 町田智絵	学習者・教室指導者

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年3月6日】

地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査の一環として、川場フィールドワークで、地域住民が地域について言及したり、PRポイントだと述べたところと、外国人学習者が地域について言及したり、特に関心を持ったところや不便さや違和感を持ったところの比較対象をした。この作業により、外国人学習者が持つ視点が、地域にどう具体的に貢献するのかを検討することができた。



○取組事例②

【第2回 平成30年3月9日】

地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査の一環として、各回の振り返りにおける外国人学習者と指導者のコメントを拾い上げ、その着眼点の共通性と違いについて確認した。このことにより、外国人学習者の視点を活かすということが、日常の教室活動でどのような局面で現れ、どのようにすればその視点を活動に活かすことができるのかを考察することができた。



(2) 目標の達成状況・成果

事業責任者・コーディネーター・リーダー指導者となる多文化共生推進士が、対象地域に関する実態調査を行い、学習者が、「外国人の視点」で対象地域の面白い点・不自由な点など感じることを抽出し、表現できるような指導法・しくみづくりについて検討することを具体的に導き出すことができた。例えば、日本での旅行で不便に感じる様式・流儀・掲示について議論を深め、方策を検討することができた。これらの点について、外国人学習者が改善点を示唆したり提案する発信が、地域貢献につながることを、外国人学習者に実感してもらうことができた。その知見は、同様の関心をもつ他県他地域にも応用可能と考えられた。

(3) 今後の改善点について

空白地域「川場村」で太田大泉地域の外国人住民が地域貢献できる人財として活躍できる可能性を示すことはできた。また、この事業をともに取り組むことにより、空白地域「川場村」の行政や地域関係機関の外国人住民への関心を高めることにも成功をしたと考えられる。しかし、川場村の「外国人住民」の数は、3,321人中わずかに7人、前年度より1人減(平成29年12月群馬県調査)という実態であり、生活者としての外国人を川場村村民が日常目にするのがほとんどないという状況にある。より現実的な方策としては、観光インバウンドにまずは、多くの日本人住民が関わることから、そこに外国人住民の知恵を取り込むことが、地域に根差した方策となることを本事業により体感してもらい、7人の外国人住民が望めば、交流につながるという方策を練る必要がある。

<取組5>

取組の名称		地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけたシンポジウムの開催						
取組の目標		事業責任者・コーディネーター・リーダー指導者となる多文化共生推進士が、対象地域に関する実態調査を行い、学習者が、「外国人の視点」で対象地域の面白い点・不自由な点など感じることを考えることを抽出し、表現できるような指導法・しくみづくりについて検討する。また、そうした試みが、空白の地域にとってもメリットとなるような方策を探るために、実践地域関係者との協議を行う。						
取組の内容		本事業に関心のある県内外の関係者を対象にシンポジウムを開催し、【取組1～4】の成果と課題を報告して、本事業が掲げた3つの目標への達成の状況と取組の効果と課題を検討いただく。その結果をもとに、今後、「ぐんまで『高齢期』に備えるための日本語教育」プログラムを、群馬県内外のより広い地域に普及させる上で改善をはかるべき事項を抽出し、地域日本語教育プログラム充実のための方策を導き出す。						
<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	本事業では、空白地域として、「川場地域」=主として中国・フィリピン出身の外国人住民が在住する外国人散在地域を設定した。【取組5】では、この地域での取組の結果報告をし、今後、この地域で地域日本語教室を継続実施していく上での成果と課題を検討する。						
取組による体制整備		本取組は、「外国人集住地域」と「外国人散在地域」という2つの地域特性と、外国人の文化的・社会的多様性に配慮した「ぐんまで『高齢期』に備えるための日本語教育」カリキュラムを開発しようとするものである。本取組が対象とする「太田・大泉地域」「川場地域」は、それぞれ地域特性の典型例となり、そこで構築される地域日本語教育実践は、群馬県内外の地域的・人的な多様性に対応する地域日本語教育実践を展開する基盤づくり全般について重要な示唆を導くことができると考える。						
取組による日本語能力の向上		日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめ外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期にむけた納得のいく備えを進めることの意義を、学習者自身が自覚し、自らの選択を誇りを持って次世代に伝えるようになることと推測される。高齢期を生きる外国人住民としての知恵や工夫が、外国人住民のみならず、日本人住民にも示唆を与えるものであり、自らの生き方を日本人にも日本語で伝えることで始まる地域での関係が、より豊かで安全安心な日本での定住を導き出すことを体感してもらえないのではないかと考える。						
参加対象者		本事業に参加した学習者とその家族・コーディネーター・指導者・講師・高齢者に関わる行政、社会福祉、保健等関係機関に従事する者、広く県民一般。	参加者数 (内 外国人数)		45人 (26人)			
広報及び募集方法		開催チラシを作成し、下記「主な連携・協働先」に記した関係機関に協力をいただき、周知広報し参加者を募集する。本学HPにも開催案内を掲示し、県民一般に周知広報する。						
開催時間数		総時間 2時間(空白地域 該当無し)	(回数) 1回(2時間×1回)					
主な連携・協働先		群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、群馬県栄養士会、一般社団法人ミス日本酒等						
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	ペルー(16)、日本(19)							

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成30年 2月25日(日) 14:30～16:30	2時間	群馬大学 太田キャンパス	19人	実践交流・意見交換会	学習者と指導者がこれまでの取組で学習・体験したことについて報告。その報告成果をもとに、学習者・指導者・参観者が意見交換しながら、地域日本語教育プログラム充実のための方策を探った。	薄衣景子氏、 結城瞳ジナ氏、 結城恵	山田恵美子、小林あけみ、正田江利子、糸井昌信、糸井和子、葛尾あゆみネイデ、FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA、町田智絵

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 30年2月25日】

- ・指導者及び学習者による成果発表(ウォーキング班、料理班、お酒班、全体活動)
- ・意見交換会



(2) 目標の達成状況・成果

本事業に関心のある県内外の関係者を対象にシンポジウムを開催し、【取組1~4】の成果と課題を報告して、本事業が掲げた3つの目標への達成の状況と取組の効果と課題を検討いただくことができた。外国人学習者の成果報告プレゼンには、その学習内容の達成度が現れており、日本語力の向上とともに、高い評価を得た。その結果をもとに、今後、「ぐんまで『高齢期』に備えるための日本語教育」プログラムを、群馬県内外の、より広い地域に普及させる上で改善をはかるべき事項を抽出し、地域日本語教育プログラム充実のための方策として、外国人住民が主役となる観光インバウンドワークショップなど、活用可能な方策を導き出すことができた。

(3) 今後の改善点について

外国人学習者の意欲と日本語能力の高まりを、維持継続させ、さらには、地域に貢献したいという思いと実践した後の手ごたえをその後の活動に展開しているよう、活動を途切れることなく進めることが求められる。教室の来年度早々の再開を外国人学習者からも指導者からも養成されており、方策を考える必要が生じた。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業の目的は、日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめている(はじめようとしている)外国人住民が、地域で主体的に生きるための日本語教室を提供することにある。平成29年度は、自らの得意分野を活かした地域実践を日本人住民とともに展開することで、外国人学習者が自分も地域に貢献できる人財であることを実感してもらおう。そのチャレンジのために日本語を学ぶ、という動機づけを持たせ、日本語教育の効果も向上させる。このことより、外国人学習者が、日本語を使った日本人との交流の中から自らの生き方に対する誇りを持ち、日本で高齢期を生きる外国人住民としての知恵や工夫を磨く意欲を向上させ、日本で過ごす高齢期に「生き甲斐」を持って過ごしてもらおう。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

最終報告会の学習者の日本語プレゼンテーションに、指導者も驚くほどの、語彙力と表現力の向上を確認した。なぜ指導者が驚いたかという、学習者が主体的に、日本語学習をはじめ、あるものは、公民館の日本語会話教室に、あるものは、自分の子どもの国語の教科書から漢字を学習するなど、個々人の地道な努力を知ったからである。本年度の本事業でこだわった外国人学習者の「主体性」は、川場村フィールドワークを通じた観光インバウンド開発の取組ということにあった。しかし結果として、外国人学習者の日本語で伝えたいという強い思いを高めることとなり、その思いが「主体的に日本語を学ぶ」ということにつながったことは、指導者にとっては想定外のうれしい効果であった。本事業の成果報告会では、学習者・指導者それぞれの視点から、学びの深さと広がりについて質的なコメントを得られ、本事業が当事者にとって意義があるものであったことが確認された。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・連携した地域の関係者は、群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、群馬県利根沼田行政県税事務所、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、土田酒造株式会社、等、産官学民の多様な主体と、それぞれの特徴を活かした連携が図れた。また、学習者・指導者からの紹介で、ブラジル人コミュニティの中核的人財・機関(教会・学校)とネットワークを形成し、事業を推進することができたことも特筆すべきことであった。これらの連携の効果・成果としては、継続的な連携関係に発展し、次年度の事業計画も協働で検討できたことがあげられる。

(4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

対象となる外国人コミュニティのなかにある、教会や学校関係者が学習者や指導者として参加していることがきっかけで、参加者への周知・広報が着実に対象者に広がった。これらの関係機関のイベントを利用して周知広報をすることは、本事業の理解・支持に特に効果的であった。

(5) 改善点、今後の課題について

1年間の事業を終えて、本取組の可能性と課題として集約されることは、学習者のみならず、指導者、講師、本取組に参画していただいた地域関係者、そして、地域日本人住民のすべての方々にとって、本取組に意味があり、メリットが得られるように、目的を設定し、内容を構成することである。この観点から、本年度のみならず過年度のすべての取組を振り返り、関係者とともに意見交換をし、来年度以降の取組に反映できるような仕組みづくりを進めたいと考えている。

(6) その他参考資料